

+++++  
**「植物と人々の博物館メールマガジン」 第20号 2016年9月22日発行**  
+++++

台風が多く来て、晴天の日が少なく、病害虫が出て、有機農法もなかなか難しいです。でも、「借金なし大豆」は草に埋もれて鳩の食害から生き残り、枝豆つまみ程度は取れそうです。レタス類、カリフラワー類、ハクサイの良好な苗を定植しましたが、ヨトウムシ、テントウムシダマシに食害されほぼ壊滅、追い播きしました。カブ・ダイコン類はよく発芽しました。トマトは裂果、ウリ類も一部腐りましたが、たくさん収穫できました。今は伏見甘唐辛子、奈良紫唐辛子などが良く取れますので、ご近所にもおすそ分けしています。村人からもリクエストがあるほど人気です。六条大麦、団子麦の丸麦（できれば南部小麦の粉も）を中川さんをお願いして西原の水車で搗精・製粉してから、希望者に差し上げます。下記にメールください。「おぼく」や「リゾット」にして食べるとおいしかったです。今秋は播種しない予定です。

会員および配信を希望される方に公開活動ニュースなどをお送りしています。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、「辺境」の地道な活動に薄情な「マスコミ」や「ギョウセイ」ではなく、顔見知り信頼の「ロコミ」で転送伝達していただけると嬉しいです。連絡先は下記メールアドレスです。

## 〇報告

**1. 雑穀見本圃の様子：** 小菅の畑のキビは9月9日に黒澤さんらが収穫しました。アワは10月に収穫予定です。播き直したキヌアは良好で、種取しました。藤野駅北の畑はホーム3号車の位置、藤野倶楽部看板の向こうに見えます。藤野倶楽部の宮本さん、TT藤野お百姓くらぶの末村さん、木下さんらが除草し、防雀網を張りました。現地の写真は下記にあります。

小菅村には各所で雑穀畑が見られます。 **写真**

**2. 雑穀兼用の精米機**を購入しました。山本電機匠味米 RC52、9月1日新発売（雑穀用付属品、送料など含めて25000円）です。うまく加工調整できるか試してみます。

## 3. 第38回環境学習セミナー

『自然と暮らす知恵と技能を学ぶ。山村の生活技能・環境学習（冒険学校）』

日時：2016年9月3日（土）～4日（日）

場所：山梨県小菅村中央公民館、自然文化誌研究会拠点のキャンプ場（小菅村内）

### 趣旨：

自然文化誌研究会は、秩父多摩甲斐国立公園とこの周辺にある山村で環境学習活動／冒険学校や雑穀調査研究、これらの成果を応用して、エコミュージアム日本村／トランジション小菅など、山村維持の取組みを40年あまり続けてきました。現在、精神性さえもがデジタル化されようと大きく変わりつつある世界のなかで、自然とつながるアナログ的な伝統的知識・技能が過疎高齢化によって決定的に失われようとする変曲点にあります。現実世界が仮想世界に蔽われようとするこの時代に、私たちアナログ自然・文化好きの冒険人たちはこの巨大な趨勢にどう抗ってきたのか。

佐々木豊志さんからくりこま高原自然学校を巡る豊かなご経験を踏まえ、イギリス発祥のOBS（アウトワード・バウンドは非営利の冒険教育機関）から始まる冒険教育の実践理論についても語っていただきました。また、小菅村で自然と直に向き合ってきた山村の豊かな暮らしを木下善晴館長と加藤源久さんからご紹介いただき、私たちが生活する人生を深く考えるために、10名あまりの参加者でゆったりと話し合いました。キャンプ場では深夜まで、佐々木さんを囲んで語り合ったようです。自然学校・冒険学校などで培ってきた経験の蓄積を学び直し、私たち市民がこのくにを再創造しながら、未来に向けて実体のある生活様式をどのように維持するのか、ともに学び、考えるためのセミナーになりました。詳細な記録は民族植物学ノオト第11号に掲載する予定です。 **写真**

**4. 竹栄会（自然地理ゼミ）で黒澤さんが自然文化誌研究会冒険探検部（学大探検部）の歴史を講義しました。**

久しぶりに小泉武栄先生にお会いできました。少しも変わらずお元気です。木俣は本会の創立者であったの

ですが、それぞれの世代で、学生の皆さんによる知らない歴史が展開されていて、黒澤さんのお話はおもしろかったです。日本ワングル史のお話にも共感しました。

## ○予定

**展示解説・作業予定日：** 9月・10月は台風の様子を見ながら、9月24日（土）、30日（金）、10月21日（金）、28日（金）、11月2日（水）の予定です。

年に1日、月に1日でも、未来への遺産である民具や図書の整理をご一緒していただければありがたいです。参加希望者は木俣にメールしてください。[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

### 1. ラジャバト大学プラナコンからTJクラブ環境学習巡検が来ます

日時：10月8日（土）から16日（日） 場所：主に小菅村

参加者：ラダワン先生やシリワット先生他8名。

\* ご協力ください。歓迎会・送別会もします。問い合わせ連絡先は黒沢事務局長です。

### 2. シンポジウム「農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流」の企画準備状況

（企画につき良いアイディアがありましたら、お知らせください。）

シンポジウム（第39回環境学習セミナー）を企画しています。10月3日に神田で伝統知共同研究会があります。来春のことですが、ご予約に入れていただき、厚志による実りある、ゆったりとした話し合いの場にしたと思います。ご友人に転送・転載などご助力ください。また、共催、後援、協賛など、個人ボランティアとしてご援助いただけるとうれしいです。よろしくお願ひします。

日時：2017年4月15～16日（土日）1泊2日、日帰り参加もよい。

場所：神奈川県相模原市緑区、藤野地区の「篠原の里」ほか。

連絡問い合わせ先：黒澤友彦 [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp) または木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

宿泊：「篠原の里」、藤野倶楽部「無形の家」ほか

参加費：実費程度

主催：自然文化誌研究会、ECOPLUS（伝統知共同研究）、藤野シンポジウム世話人会（末村成生さん）

共催：エコミュージアム日本村（トランジション小菅）／ミュージアム研究会ほか

趣旨：

日本の農山村、とりわけ山間地の集落では、過疎高齢化の影響が深刻となり、長年受け継いできた自然と調和した伝統的な暮らしが消滅する寸前に立ち至っています。一方で、何百年、時には千年以上にわたって暮らしを維持してきた集落に蓄積されてきた伝統的知識体系や技能には、現代的な課題となった「持続可能な社会づくり」への示唆が豊かに保全されていることが明らかになってきています。

自然だけではなく、身近な土地からさえも切り離されて世代を重ねた都市部の住民にとっては、この智恵や技能を総合的に体験し、自らの暮らしの組み立てを考える機会は極めて有効です。自然を単に体験するだけでなく、その地に育まれた生活文化全体を題材とした都市との交流は、これからの農山村と都市住民の交流の新たな姿として探求される必要があります。本事業では、3年次計画で実際の伝統知学習プログラム展開をしつつ、この新たな交流実践の姿を描き出す試みをしてきました。

本シンポジウムでは、共同研究の成果報告とともに、社会的に成果を位置づけるために基調講演と他の先進事例紹介を行い、農山村と都市からの参加者ともに、生活における伝統知や技能の大切さとその継承による、健全なライフスタイルについて幅広く話し合いたいと思います。

幸いなことに、開催地藤野は日本のトランジション・タウン活動の中心であり、シュタイナー学校やパーマカルチャー・センターもある。素のままの美しい暮らし（sobibo）へとライフスタイルを変容するために学ぶために良い実践が蓄積されています。これらの文化的財産をもとに、これからの私たちの生活や人生の先行きを明るく直観できるような統合概念をともに発見したいと思います。

内容：

- 1) 基調講演：現代文明の移行と伝統知・生業（仮題）  
設楽清和さん（パーマカルチャー・センター）  
高橋靖典さん（トランジション・タウン藤野、藤野倶楽部）
- 2) 伝統知共同研究報告 研究メンバーからの報告
- 3) 座談会風の総合討論
- 4) ポスター発表展示 参加者から募集
- 5) 交流会（夕食懇親会）

### 3. 日本村塾ゼミ

ご意見、ご要望をお知らせください。

- 1) 自給農耕ゼミ第7回； 藤野の雑穀畑で収穫作業の予定です。日時が決まったらお知らせします。
- 2) 民族植物学ゼミ第3回； 希望者があれば、読書会を松戸近くで再開したいです。
- 3) 扶桑園ゼミ第3回； 希望者があれば、日本国憲法についてテキストをもとに話し合ってみたいと思います。『民族植物学ノオト』第10号に私論を掲載しました。

4. 民族植物学第10号は編集中ですが、でき次第、希望者にはお送りします。なお、第11号の原稿締め切りは2017年3月末予定です。

5. 伝統知研究会、10月3日19時、神田のEcoplus事務所で開催です。

6. 『雑穀のインド亜大陸』は2017年3月を完成目標に、個人（主語私）の実験をまじえながら、自由に書いています。未定稿ですが順次公開していきます。現在、序章「インド亜大陸での出会い」、第1章「雑穀の民族植物学と調査研究の方法論」、第11章「雑穀のこれから」および付録の一部を公開しています。決定稿になるまで、適宜加筆修正をします。下記の個人ホームページから引用してくださる場合は、「木俣美樹男（2016未定稿）」としてくださるようお願いいたします。

### 7. Ecoplus 国際シンポジウム「場の教育」の予定

伝統知共同研究先のエコプラスが企画しています。ぜひ予定に入れておいて、ご参加ください。詳細が決まればお知らせします。佐々木さんも木俣も参加します。

日時：2017年1月21日（土）～22日（日）

場所：早稲田大学 主催：エコプラス

\*\*\*\*\*

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

連絡先・相談係：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

\*\*\*\*\*



左はキビ、右はモロコシ



第 38 回環境学習セミナー の様子、小菅村中央公民館。